

技術検討会(第1回)における質疑・意見と回答・対応

資料3

整理 番号	質問者	分類	質問・意見	第1回技術検討会での回答	回答・対応	備考
1	山本委員	評価書案(全般) アンケート結果 について	評価書案に記載のアンケート結果について、「分からない」という回答の割合が高い。アンケート対象者・実施時期・総数について知りたい。	事業の関係市町の居住者を対象にR3.1月～3月に実施。アンケート総数420通に対し281通の回答があったところ。	第1回技術検討会の回答で対応済み	
2	山本委員		アンケート内容は普段から木曽川右岸施設を見たり、事業の効果を感じたり、確かめられる事項について設定したのか。	アンケートは、事業の影響が及ぶ範囲の対象者を抽出しており、事業の効果が感じられる者を対象と実施したところ。	第1回技術検討会の回答で対応済み	
3	飯尾委員		アンケートの対象者の抽出方法如何。また、実施は対面方式によるものか。	事業で実施した工事対象箇所周辺の農家を抽出し、その方々を対象として調査を行ったところ。また、調査方式は郵送による。	第1回技術検討会では評価書、基礎資に記載したアンケート結果しか情報がなかったため、第1回幹事会・委員会で諮った「木曽川右岸施設緊急改築事業 事業に関するアンケートの実施方針」及び第3回幹事会・委員会で説明したアンケート結果、によりアンケート調査の考え方や設問等の全体像を説明	
4	飯尾委員		施設周辺の居住者へのアンケート調査で、「分からない」という回答が多い結果となる理由が分からない。 現地調査が実施出来れば、地域住民に話を伺うことで理解できることもあるが、メディアとしては判断に困る内容となっている。 420という母数は妥当なのか？ 分からないという回答に対し、どのように整理しているのか。	事業効果に関する質問のうち、農業に係る内容は実感があると思うが、農業以外の効果については実感がわかなかったのではないかと考えているところ。 また、フリーコメントとして「細かな指標がなければ評価できない」という声もあり、事務局としては調査に際して一工夫するとよりよかったか、と感じているところ。 アンケートの母数については、同規模の他地区の事例なども参考に決めており、妥当であると考えている。		
5	徳田委員		(アンケートに関連して)本事業の受益は水田と畑がおおよそ半々であるが、畑地におけるかん水の用途如何。	本地区では多様な作物が作付けされており、一概には言えないが、現地調査で見て頂く予定であったとおり、本地区は果樹栽培も盛んである。果樹園栽培では地表へのかん水や品質向上のため、霜よけ用に樹上へのかん水等を行っている。		
6	徳田委員		地産地消、6次産業化の観点から見ると、本施設はどのように貢献しているか。	地域の営農者として、地域から請負による営農や、新規就農者支援等を行っている方に聞き取りを行ったところ、本施設による安定した用水供給がない状況では、営農を続けることは困難であるとの回答を得ている。営農が継続されているという環境を維持することにより、ひいては若手の就農等も可能となっていると考えており、間接的に地域の6次産業化等の農業振興に寄与しているものと考えている。		
7	徳田委員		地元は、施設の老朽化に対して、地域農業の今後に関わるという危機感を持っていたということか？	地域の営農者全員が本施設の改築等の取り組みについて認識して頂いているという訳ではないと考えている。しかし、聞き取りをさせて頂いた営農者の方のように、本施設の重要性を認識して頂いている者も少なからずおられる。	第1回技術検討会の回答で対応済み	

技術検討会(第1回)における質疑・意見と回答・対応

資料3

整理番号	質問者	分類	質問・意見	第1回技術検討会での回答	回答・対応	備考
8	徳田委員		本地区でのかん水の使用状況、施設の配管状況等は如何。	先ほど説明させて頂いた果樹園を代表に説明すると、圃場内にスプリンクラが配管されており、それによりかん水がなされている。山之上地区は県下有数の果樹園であり、ほとんどの圃場が同様な形態であると考えている。	第1回技術検討会の回答で対応済み	
9	徳田委員	掲載データ確認	関係市町の農家戸数を農林業センサスから引用し、H22の市町村合併を含めた値を使用しているが、農林業センサスであれば合併前の数値が確認できるはず。県の動向と正確に比較できるようにH17の数値とレベルを合わせて資料修正願いたい。	H17に合わせた資料整理を検討する。	旧市町単位で整理し、資料を修正する。	
10	増田委員	(評価書案 5 (1)) 自然分解型植生シート の配合種子	自然分解型植生シートに使用した種子について、事前説明時には環境情報協議会の意見を元にケンタッキーブルーグラス・クリーピングレッドフェスク・イトコヌカグサを選定している旨、回答があったが、これらは侵略的な外来種であり、環境に良くないものとして環境省のデータベースにも掲載されている。 今後はできるだけ外来種を避け、在来種を使用することを検討されたい。	— (増田委員～飯尾委員間のやりとり)	以下を説明 実際に工事で採用した種子(5種のうち1種は環境省リスト掲載)について、説明(工事の材料承諾の書類を提示) 本事業では、在来種を含めて有識者の意見を聞きながら検討したが、調達の可否等から上記の種子を選定した。 今後も現地状況を踏まえて、在来種の使用を検討するとともに、環境省外来種リストに十分に留意し種子の選定を行う。	
11	増田委員		(飯尾委員の植生シートの種子はどのようなものを選定しているのか、との発言に対し) 市販されている種子を使うため、ゴルフ場や法面浸食防止として使われる外来種が多い。 在来種の市販品もあるが、高価なため採用されにくい。種子なしのシートを使用し、周辺植物の繁茂を促す方法が環境的には良いが、緑化し難いというデメリットもある。会検への説明上難しい。	同上	—	
12	増田委員	自然観察水路	自然観察水路を作ったのであれば、生き物の生息のため通年通水する工夫はできないか。	この事業で整備した自然観察水路については、水路から緊急的に排水を行うブローオフと周辺排水路を一体として整備したものであり、通年通水はできない。	以下を説明 ・木曽川右岸施設の自然観察水路は、水利権の関係もあり、通年通水はできない。 ・今後自然観察水路を整備する場合には、出来るだけ通年で通水されるような条件下にある場所を候補地として選定するなど工夫したい。	

技術検討会(第1回)における質疑・意見と回答・対応

資料3

整理番号	質問者	分類	質問・意見	第1回技術検討会での回答	回答・対応	備考
13	飯尾委員	評価書案 6 事業化対象施設の 緊急性	緊急改築事業における緊急性の判断はどのように行っているのか。	施設の改築対象は、緊急性ととも管理まで含めたライフサイクルコストを総合的に勘案しており、現時点で改築すべき施設を対象に選定した。	整理番号19(千家委員長のまとめ)により対応	
14	千家委員		地区内の管水路の更新状況が50%程度との説明(事前説明時)だったが、緊急性が高く・改築による効果が高いにも関わらず未改築が多い状況に疑問がある。	施設の状況＋施設の重要度を勘案した上で事業施設区間を設定している。		
15	飯尾委員		事後評価書(案)の6. 今後の課題等に「未改築区間で漏水が発生している」と記載すると、なぜ改修しなかったのかという疑問が生じる。	施設の健全度調査は、ある一定区間を代表施設として調査・評価するため、全ての管の健全度を把握したということではない。		
16	千家委員 飯尾先生		評価書案中に「ライフライン」という記載がある。上水道のように漏水への相応の対策がなされているべきと考えられるため、緊急性の判断について質問しているもの。 漏水時の対応は、本事業のような全面的な改築工事ではないと理解している。	漏水への対応は即時に実施している。		
			漏水時の対応を行いつつ、漏水に備えた改築工事今後必要になるという理解で良いか。	然り。今後も計画的な改築も必要。 (緊急改築として実施した中、未改築部で漏水が発生している状況への補足説明)事業計画を立てた時点では、PC管の劣化が著しい施設のうち、第三者への影響が大きいを優先した。未改築部分については、その後の劣化の進行により漏水しているという状況。		
17	徳田委員	掲載データ確認	基礎資料案P25 では令和元年時点の田:1,591畑:1,300と記載している一方、木曽川右岸施設緊急改築地区の効用に関する説明資料 P13には、田:1,255、P14に畑:1,574と表記されている理由は(田と畑の面積の大小が逆転)。	確認して改めて回答する。	木曽川右岸施設緊急改築地区の効用に関する説明資料p13は表裏の作付け面積の合計のため基礎資料案のp25の受益面積と数値が異なっている。 なお、水田について受益面積よりも作付面積が少なくなっている理由は、本地率(93.4%)を加味した値となっていること及び調整水田を効果発生面積として計上していないことによる。	

技術検討会(第1回)における質疑・意見と回答・対応

資料3

整理 番号	質問者	分類	質問・意見	第1回技術検討会での回答	回答・対応	備考
18	千家委員	委員長のまとめ	アンケートについて、対象者、分からないという回答の要因の説明など、アンケート結果を深く理解できる記述に改めて欲しい。	—	整理番号3～6により対応	
19			どのような施設を事業化の対象としたのか、緊急性の意味がわかるような記載をどこかに加えて欲しい。	—	「6. 今後の課題等」に記載	
20			徳田委員からの統計資料の指摘2点(農家戸数、受益面積)について、正確な情報を整理	—	整理番号9,17により対応	
21			増田委員からの環境に関する指摘2点(植生シートの選定、自然観察水路の通水)について、今後の課題等として記述して欲しい	—	整理番号10,12により対応	
22			各委員の意見をメール・文書等で委員長に集約し、委員長が技術検討会の意見としてまとめることで良いか？	そのように進めていただいて問題ない。後日、提出期限・提出先を事務局からメールにて連絡する。	対応済み	